地元力発見！㊸

佐藤建吉　「洸楓座」代表

ブルネルとナイチンゲールの誕生日にちなんで㊦

フローレンス・ナイチンゲール

前回㊤で紹介したブルネルと、今回紹介するナイチンゲールは、クリミア戦争での野戦病院で大きな貢献を行った。ブルネルはプレハブ式の野戦病院を設計し、ちなみにすでに衛生面や換気や温度管理などの概念が取り入れられていた。一方、ナイチンゲールは、劣悪な環境や施設状況の下で、独自の観察と工夫を行い、傷病兵の生存率を著しく改善した。このため、<クリミアの天使>とも呼ばれる。ナイチンゲールの誕生日は1820年5月12日で、今年は生誕203年にあたる。1910年8月13日、90歳で他界。生涯独身で近代介護の基礎をつくった。こうして、5月12日は、世界では「国際看護師の日」や「ナイチンゲールデー」とされている。日本では「看護の日」である。

自著の『ナイチンゲールの看護覚え書』を手にした金井一薫氏（ナイチンゲール看護研究所、2023年5月13日、筆者撮影）

ナイチンゲールについては、日本ではよく知られている。2002年にBBCが行った『100人の偉大な英国人』ではブルネルは第2位の得票。ナイチンゲールは第52位であった。日本でブルネルの知名度が低いのは、独自に改革や革新を進めるブルネルのような人物は明治政府が進める施策に混乱を導くものと、明治政府が意図的に日本へ伝えなかったからであろう。これとは逆で、ナイチンゲールは、看護や介護の聖女であり歓迎される人物であった。したがってナイチンゲールは、絵本や伝記にも登場し幼児にも親しまれている。親切や思いやりをテーマで、3年生の道徳の教科書でも教えられている。

今年の5月13日（ナイチンゲールの誕生日の翌日）に、東京・早稲田大学のリサーチイノベーションセンター直ぐ前にある出版社、㈱現代社の社屋4階で、ナイチンゲール看護研究所の「金井塾」が開催された。筆者も参加した。写真は同研究所の所長で、看護学の国内リーダーで元大学教授でもあった、主宰者の金井一薫（かないひとえ）氏である。ナイチンゲールの看護学に由来した研究者で、ナイチンゲールの優れた看護学の真髄を自身の看護学として大成した。そのため、国内に弟子や崇拝者など多くの関係者がいる。

金井塾の一シーン（5月13日）

金井氏の看護理論は、KOMIケア理論とよばれる。Kanai Original Modern Innovationの略でもあり本名のKOMINAMIの四文字でもあるという。その内容は、看護にも理論が必要であるという信念に由来する。それは、「看護とは」「病気とは」「健康とは」、さらに「人間とは」の問いかけとその解答としての「看護のものさし」を基準として提示している。

ナイチンゲールの思想が琴線に触れた

金井氏は、1970年に看護に関して貢献している。本年5月からはナイチンゲール看護研究所で「金井塾」を行うという。

ついてのナイチンゲールの思想を自身が看護師の時に出会い共鳴、すなわち琴線に触れたようである。以来、ナイチンゲールについての翻訳や著作を行っている。出版業を行っていた小南吉彦氏と出会い、後に結婚。看護学書籍を専門とする出版社、㈱現代社を設立し、とりわけナイチンゲールに関する著作を行っている。ナイチンゲールの看護学の理論と実務にお

『看護覚え書』（金井一薫編著、西東社）は、その題名にもあるようにイラストと図解で、初心者にもわかる入門書であった。現代社からは今年2023年1月6日に『看護覚え書』（第8版、308頁）を発売した。その章立ては、病気とは回復過程である／換気と保温／・・／食事／・・／ベッドと寝具類／陽光／部屋と壁／からだの清潔／・・／病人の観察／・・／赤ん坊の世話／などとなっている。これは、病気の時の回復のための看護ではなく、日常の暮らしそのものである。看護師にはもちろんであるが、一般人の立場でも必要な内容である。

ナイチンゲールには名言が多い。「理論は実践に支えられている限りは有用であるが、実践の伴わない理論は看護師に破滅をもたらす」と厳しい。次の言葉は、筆者の地域活性化の思想と重なる。「看護の仕事は、快活な、幸福な、希望に満ちた精神の仕事です。犠牲を払っているなどとは決して考えない、熱心な、明るい、活発な女性こそ、本当の看護師といえるのです。」

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大大学院工学研究科准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洸楓座」代表。一般財団法人「エコミュージアムいすみ」代表。